

これまでの 15 年、これからの 15 年

2015 年の年明けで一番驚いたニュースは、トヨタ自動車の「燃料電池車に関する特許データの無償提供」でした。約 5700 件に及ぶ特許を世界の自動車メーカーに対して 2020 年まで「フリー」で提供するというのです。自動車メーカーにとって、最高機密であるはずの開発技術が無償提供するというのは、今までの業界常識では例の少ないことです。おまけにこれからのトヨタにとってメシの種とも言うべき「水素エンジン」の特許を含んでいるというのですから驚かすにはいられません。google がヤフーの検索エンジンに採用されたのは、ちょうど 2000 年のことでした。以来 15 年、google は「フリー」という旗印を掲げ web の世界を牽引してきました。既存のソフトメーカーやハードメーカーですらその勢いには対抗出来ず、様々な企業がその手法を追いかけアップルやマイクロソフトでさえ似た様な手法を取らざるを得ませんでした。

そして Web の世界だけではなく、いよいよ実物の世界でもまったく新しいスタイルが生まれようとしています。社会主義国家であるソ連が 1991 年に消え、中国がまったく新しい形で資本主義、社会へ殴り込みをかけ、またここに新しい形の「経済社会」が生まれてこうとしているのかもしれません。時代には緩急があつて、変化に乏しい期向と一気に変化する時があります。2000 年からの 15 年間は凄まじい情報社会の発展の時代でした。そしてこれからの 15 年間はそれにも増して加速する変化の時代であることは疑いようがありません。

15 年という期間

一般的に人の思考は、1 年、3 年、5 年くらいまでの予測で物事を考えようとします。経営においても中期経営計画とは 5 年後くらいのことを指します。しかしながら本当の時の長さを計る期間は 15 年かも知れません。

15 年間とは「15 才の少年少女が 30 才という青年になるまでの期間」です。同時に「30 才の青年たちは 45 才という壮年を迎える期間」です。そして「45 才の社会や組織をど真中で支えた人々が 60 才を迎える期間」でもあります。当然「60 才の人は 75 才となり人生の終焉を意識する期

間」です。2015 年を迎え「今までの 15 年とこれからの 15 年を考える」ということは重要なことです。

今から 15 年前の 2000 年は「平成 12 年」に当たります。20 世紀最後の年でした。この時の総理大臣は何かとお騒がせな小渕優子の父親、小渕恵三で、その死去に伴い森喜朗が首相を継ぎました。太田房江が日本で初めての女性知事となった年でもあります。新 500 円硬貨が発行され、今はどこにあるのかわからない 2000 円札が発行されました。プロ野球では巨人の長嶋とダイエーの王による最初で最後の ON 対決があつた年といえわかりやすいでしょうか。有珠山噴火、三宅島噴火、駒ヶ岳(北海道)の噴火と火山噴火が相次ぎ、鳥取で大地震がありました。梶山静六や二階堂進などという個性の強い政治家が世を去り、青江三奈や工藤栄一が亡くなっています。若い世代には格闘家のアンディ・フグが死んだ年といったほうが印象深いでしょうか。

さて、15 年前、皆様方は何歳だったでしょうか？

創造と破壊

中国史上、もつとも有名な「秦」の「始皇帝」の時代は、中国全土をその支配下におき万里の長城などを築き繁栄を誇り、そして 15 年(紀元前 221 年～紀元前 206 年)で滅びました。15 年間という年月は「創造の期間」であるとともに「消滅の期間」でもあるのです。

新しい年を迎え、また時代が動きます。その時に、組織と個人が何を考えいかに動くかですべてが決まっていきます。

しばらくコラムを休ませて頂いておりましたが、本年は欠かさず情報の提供をさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

著者紹介 戸敷 進一(編集注＝顔写真を入れます)

1956 年宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>)代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国 300 社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。昨年より帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。